

たくさんのご支援を
ありがとうございます。

編集後記
エレーナ医師の報告で前回のアルツール医師のものと重複する部分は省略しました。ぜひ76号の報告を併せて読んでください。移動検診のことがよくわかります。(M K) 今回より編集作業に加わるようになりました。まだ慣れないですが、がんばります！(み)

広島とチェルノブイリでの医療活動を通して

広島・チェルノブイリ・セミパラチンスク（カザフスタン）と、放射線被ばくによる甲状腺の病気の治療に長年関わられている武市宣雄医師。優れた医療技術に加え、その陽気な人柄を慕う患者も多い。武市医師に、専門家から見たこれまでの歩みと今後について、お話を聞かせていただいた。

医師 武市宣雄

広島で現在でも見つかる 甲状腺の病気

甲状腺は内分泌臓器の1つで、10〜20才代の若い間に完成し、年と共に弱り、寿命に関与します。また妊娠、出産にも関与し、この働きがなくなると人生を終える事になります。広島、チェルノブイリ、セミパラチンスク（※1）の被ばく者の甲状腺を検診するうちに、放射線照射でこの甲状腺が障害され、甲状腺細胞が変性、崩壊し、異型核の出現、甲状腺機能の低下と共にガン発生等が起こっていくメカニズムも分かってきました。

私のクリニックでは、一九九六〜二〇〇五年の10年間に75人の甲状腺患者さんの原爆症認定を申請し、約半数の44人（58.7%）が受理されました。最近の二〇〇六〜二〇〇九年の4年

広島チェルノブイリを 比較して

広島の被災者の多くは早期放射線障害で亡くなられており、その生存者に10年後から甲状腺ガンが発生しています。チェルノブイリの原発事故の被災周辺住民には数年後から小児にこのガンが発生しました。その甲状腺ガン発生について、両者と共通した要因と、別々の要因を調べてきまし

た。共通した要因は、①若年時の被ばく者の甲状腺は放射線感受性が高く、②RETガン遺伝子（※2）と③女性ホルモンの関与です。チェルノブイリでは①ヨード摂取量が低く、②その人達の甲状腺に放射性ヨードがたくさん取り込まれた、という要因が加わりました。

チェルノブイリ医療支援 ネットワークとの出会い

我々が最初にチェルノブイリを訪れたのは一九九二年でした。通訳で医療コーディネーターの山田英雄氏と私は当時の状況から、移動検診車を使つての被災地末端医療機関と、首都ミンスクの基幹病院とを結び、甲状腺ガンの早期診断治療システムを確立することを考えていましたが、実現できずにいました。

その後、山田氏が、チェルノブイリ支援運動・九州（現・医療支援ネットワーク（CMN））の人達と出会いました。このアイデアにCMNが協力し、共に力を合わせて、作り上げられていく事になったのです。一九九七年に入つてCMNが広島での被爆者甲状腺に携わる私達医療支援団を現地に送つて下さいました。この核になったのが市民ボランティアの人達からの寄付によつてチェルノブイリ（ベラルーシ共和国）に届けられた、「雪だるま号」と名

付けられた検診車でした。

ストーリーン地区から ブレスト市へと発展

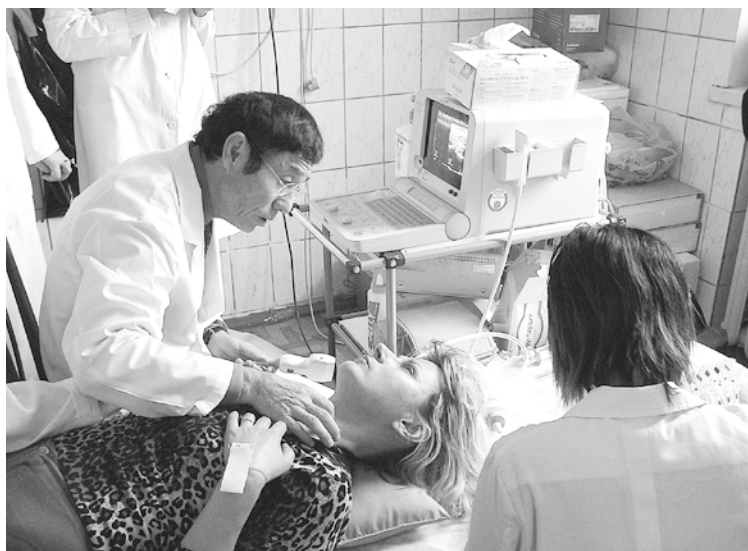
検診は毎年続けられベラルーシの高汚染地区としてブレスト州内ストーリーン地区を、中等度汚染地区として同州内のブレスト地区を、そして比較対象となる低汚染地区としてビテフスク州の甲状腺検診を行ってきました。最初は血液、尿、穿刺吸引細胞診を日本に持ち帰つて検査結果を出して報告しましたが、世界的なテロ事件や同国の政治情勢から、日本に持ち帰つての検査が許可されなくなり、すべてを同国内で済ます事となりました。同国の経済状況や政治情勢から、大切な甲状腺機能や甲状腺自己免疫抗体や尿中ヨード等の測定を、必ずしもすべてでは行い得なくなりました。さびしい気持ちになりました。

しかし現地のブレスト州立内分泌診療所からアルツール医師をはじめに、同国から多くの医師が広島に研修に来られ、私の方のクリニックや、広島赤十字・原爆病院や、広島大学、広島済生会病院等で研修され、日本の私達とほぼ同じ方法で、同じエコー、細胞診、血液検査を行う「甲状腺検診システム」は確立できました。また定期的に現地で開催した、同国の内

検診を待つ患者。
ビテフスク州にて
（2004年）



エコー診断を行う武市医師



広島甲状腺クリニック診察室にて。
武市医師を頼って、広島市内だけでなく、
遠方からも毎日多くの患者が訪れる。



内分泌科医に対する「卒後研修会」で、日本の医学の最新情報等を伝える事ができました。

このような中で、一九九七～二〇〇八年の間に二〇九〇人の甲状腺検診を行なう事ができ、50人に甲状腺ガンを見つけました。同時に、腫瘍（※3）でない部の甲状腺細胞に核異常が見つかり、これが高汚染地区の人に多い事も分かってきました。放射線で、甲状腺にガン遺伝子レベルの異常が小児に多発し、細胞の核異型からガンに進展していく事が少しずつ解明されつつあるわけです。

市民団体が支える

国際医療ボランティア

私は『王道に近道なし』という事をモットーとしてきました。CMNが



原爆ドーム（広島）

この10年間で行なってきた国際的医療支援は、医薬品、医療器具、検診車をはじめとして、多くの物的支援をし、加えて、精神的支援、そして現地の医師の医療レベルの向上までも支援してきました。それも民間レベル（ボランティア活動）を中心として、多くの市民の方からの善意の寄付、「カタログハウス」など企業からの協力、広島大学と日本医科大学を中心とした大学レベルの協力、HICARE（※4）という県レベルの協力など、広い範囲での協力を得て達成してきたものです。

広島は被爆地として、特に放射線の影響に關しての発表には敏感です。嘘のない報告が大切です。チェルノブイリ原発事故後に小児に甲状腺ガンが多発するとは、当初誰も考えられない事だったと思います。一九九二年に初めて当地に出向き、7才の女の子の甲状腺ガン手術を見、また小児の甲状腺ガンとその非ガン部を顕微鏡下に見た時、放射線の影響としか思えない像をみました。これを真摯に受けとめて、教育者と自負する立派な人達に説明していくには、甲状腺検診で早期発見をするボランティア活動に加えて、アカデミックな研究も必要となります。



頭微鏡で細胞のようすを確認する武市医師

術レベルの向上とをチェルノブイリで続けてこられた事は、信じられないような事です。感謝致します。

これからの取り組み

今チェルノブイリは事故後23年が経過しました。当時の小児は今23～37才になっています。まさに結婚、出産期です。最初に述べましたように甲状腺ホルモンは妊娠、出産に大切なもので、この5年間はそういう意味からの大切な時期になります。

今こそ広島の実地被爆地の医師としてこれを注視し、今後も広島と似た所と違った所を見極め、国際協力に貢献していけたらと思います。

【用語解説】 * * * * *

※1) セミパラチンスク
…カザフスタン共和国にあり、旧ソ連時代、40年間に渡り467回もの核実験が行われた。住民に放射能被害が報告されており、ヒロシマ・セミパラチンスクプロジェクト等市民団体も支援を行っている。

※2) RETがん遺伝子
…10番目の染色体にある遺伝子で、ここに異常があると甲状腺ガンの一種の髄様ガンの原因となる。

※3) 腫瘍
…腫れもの、かたまり状の病変のこと。

※4) HICARE（ハイケア）
…放射線被曝者医療国際協力推進協議会。1991年に設立され、世界各地から医療関係者を広島に迎え、放射線被曝者医療の研修や広島の実地被曝者医療の派遣、講演会の開催や原爆医療解説書の出版などに通して、広島の実地被曝者医療の知識の普及と国際協力に取り組む。

移動検診が守る

被災地のいのち

く赤十字と日本による二つのプロジェクト

ブレスト州立内分泌診療所・赤十字移動検診チーム

エレーナ・スレズニク医師



吸引穿刺を行うエレーナ医師

5月24日、広島市においてエレーナ・スレズニク医師の報告を中心とした「チェルノブイリ医療支援現地報告会」を開催した。エレーナ医師は、広島での研修のためHICARE（放射線被曝者医療国際協力推進協議会）の招聘で来日され、また、3月に来日されたアルツール医師と共に、被災地で検診に携わっている。エレーナ医師に、ブレスト市での現状や成果、今後の展望についてお話を聞かせていただいた。

私はベラルーシ共和国ブレスト州立内分泌診療所で、超音波エコーを担当する医師として働いています。この場をお借りしまして、私たちの医療施設に長年にわたって、市民団体の方々、専門家の方々が支援の手を差し伸べていただいて、私たちの医療施設でどのようにそれが育っているかを今からお話したいと思います。

ブレスト市はブレスト州の州都であり、人口は約30万人の町です。そして、昔から西ヨーロッパに対する窓口としても存在しています。ベラルーシ共和国の一番西端に位置します。その先はもうポーランドの領土です。そのため、ヨーロッパに対する要塞の都市として発展してきました。ブレストの要塞は1941年6月22日にナチス・ドイツ軍によって最初の侵入を受けました。現在、要塞は第二次世界大

戦当時のままに残っており、観光名所となっています。

皆さんご存じのように、1986年4月26日に人類史上最大の核被災が発生しました。このチェルノブイリ原発事故の影響というものは、医学的にも、経済的にも、環境的にも大きな後遺症を私たちの共和国に残しました。放射能汚染地域とされている46,450平方キロメートルの土地に、約222万人の人が暮らしています。ブレスト市も汚染地域になりました。

チェルノブイリ原発事故の後遺症として一番問題になったのは、やはり小児甲状腺ガンで、事故後、発生率が増加していきました。その理由として、ベラルーシ全体として低ヨード地域だったことが挙げられます。また、当時の社会情勢により事故につい

プレストの要塞。
煉瓦には無数の銃弾の跡がある。



て報道されることもなかったため、避難をさせられることもなく、予防的な措置も取られなかったということがこの被害を広める大きな原因となりました。

事故後プレスト州において、汚染地域にすむ人々への甲状腺ガンの検診が非常に急がれました。そして1997年10月、国際赤十字連盟の支援によって移動検診チームが組織されていきました。この移動検診チームの大きな



移動検診チームの検診のようす。
吸引穿刺を行うアルツール医師。

目的は、医療施設から遠く離れた僻地に住む人々へ甲状腺ガンのスクリーニング検査をするということでした。私たちの検診対象者は、一番リスクの高い対象群、つまり事故当時0歳から18歳の人々で、こういった人々を中心に検診を試行していきました。

移動検診チームは、エコー検査技師、内分泌科の医師、看護師、そして運転手で1組のチームを作り、検診を行ってきました。日本製のエコー、血

染地域）ほどガンが多かったけれども、年が経つとともに、そのリスクの差がなくなつて、いずれの地域でも高くなっています。

2001年に日本の医療専門家から吸引穿刺の技術を学び、4200名の患者に吸引穿刺を実施しました。ベラルーシにあるすべての医療機関で見つけたガン患者のうち、40数%が私たちの移動検診で見つかりました。この移動検診をするということは、患者さんにとって非常に有効な検診方法であるということを示しています。

移動検診は、頸部の視診、触診、エコー検査をして、異常がある人に対し吸引穿刺を行うという流れです。

これから日本側との共同検診の方向性について、まず第一に急がなければいけないことは、細胞診断のできる病理スタッフを育てることです。そして外科医の育成もあります。10年前と比べベラルーシの外科医の質も上がつてきています。内視鏡を使って手術する外科医もいます。そうした外科医の研修、例えば日本へ研修に呼んだり、日本の専門家が現地へ行つて指導したりということも目指していきたいと思っています。

日本と同様、ベラルーシでも近年、乳ガンの増加がみられます。よつて甲状腺ガン検診のシステムができるよう

になったのと同じく、乳ガンのスクリーニングができるようになればいいと思います。マンモグラフィーは非常に高価な機材なので、今ある機材や人材を使つて検診を進めていきたいと思っています。

最後に、ベラルーシでの医療活動に多大な支援協力をくださった日本の皆様に感謝を申しあげます。これからも共同の検診を進めていけたらと思っています。どうもありがとうございます。



広島赤十字・原爆病院の
スタッフの皆さんと

液自動分析器、尿分析器、ガンマ線線量計、血糖分析器、コンピュータなどを1セットにして検診車に積み込み、汚染地域住民の検診にあたっています。

各地域において日頃診療にあたっている内分泌科の医師などがスクリーニングの必要な患者を選し、予定表を立て、私たちの移動検診チームに検診の要請をかけます。僻地で検診を行う場合には学校、クラブ等を利用します。

チエルノブイリ医療支援ネットワークと合同で実施する検診の場で、エコー、吸引穿刺の技術を学び、移動検診チームの現場でもこれらの技術を試行するようになりました。以前の移動検診チームではエコー検査まではしていませんでした。しかし吸引穿刺は首都ミンスクの基幹病院まで行かなければならず、非常に患者さんの負担になっていました。

日本の医療専門家との合同検診を通じ、吸引穿刺の技術を習得したことで、移動検診の現場でもエコー検査をしてその場で吸引穿刺を行えるようになりました。

日本からエコー、顕微鏡、その他の消耗品などの支援を受け、また技術を身につけることができました。現在でもプレスト州立内分泌診療所に

ヨード（ヨウ素）は自然界には海水中に溶け込んで存在しており、海藻類は海水からヨードを取り込んで濃縮する。人体では、甲状腺ホルモンを合成するために必要な元素である。ヨードが不足すると甲状腺異常が発生することになる。

日本など海に囲まれ、海産物を摂取する海洋国ではヨード不足になることは少ないが、内陸国や山岳部ではヨードが不足する可能性が大きい。ベラルーシは四方を他の国に囲まれた内陸国で、海藻類を摂取する習慣もなかったため、ヨード欠乏症になりやすい。現在では食塩の中に一定量のヨードを含んだものが市販され、ヨード不足を解消するようになった。

ヨードは海には豊富に存在するが、陸上には乏しいため、進化の途上で陸上に進出した植物、動物は取り込んだヨードを無駄なく集めようとする働き（生体濃縮）がある。

自然界にあるヨードは放射性ではないため、濃縮しても何の問題もなかったが、そこに放射性物質が含まれると、思いもかけなかった被曝を起こすことがある。

ヨウ素131の甲状腺への濃縮は1953年3月、ネバダの核実験の際に風下で羊が死に、その甲状腺から高濃度のヨウ素131が検出されたことで明らか

において、日本の専門家と合同で検診を実施したり、今回の私のように日本に招かれて研修を受けたりしています。

診療所の二室を借りて、吸引穿刺をして、すぐ隣の部屋で標本（プレパラート）を作つて、すぐ検鏡をしてもらつて診断を下せるような体制作りをここ10年、武市先生、澤野先生（広島赤十字・原爆病院・内科部長）、清水先生等のご指導のもとで続けてきました。

吸引穿刺をして標本を作つて診断をするという作業は、以前はすべて首都ミンスクの基幹病院で、細胞診のできる臨床検査技師にお願いしていました。しかし現在はプレスト州立内分泌診療所において、これらの作業を行えるようになりました。細胞診についてはアリーナ医師（注／チエルノブイリ通信59号掲載）を中心に若手の育成を進めています。

診察だけでなく、患者さんの医療カウンセリングも内分泌医が引き受けています。医療カウンセリングで最も大切なことは、患者さんの要望に応えて、こういう指示やアドバイスをするかということです。検診の診断結果についても書面に残して患者さんに渡すということもしています。

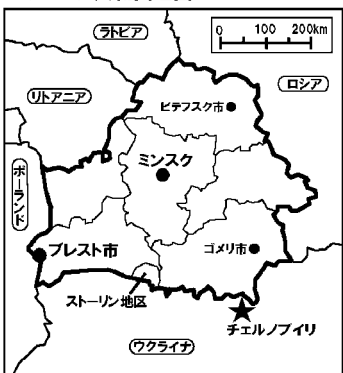
以前は当然ハイリスク（高濃度汚

かとなった。ただし、アメリカ原子力委員会はこのことを公開しなかったので、一般に知られたのは70年代後半である。

また、第五福竜丸事件で有名なビキニ水爆実験の際に、陸揚げされたマグロから高濃度の放射能が検出されて、生体濃縮を明示していた。

原発事故の際には放射性物質としてヨウ素131が放出されることは明らかなので、放射性のヨウ素を取り込む前に甲状腺を飽和させるため、放射性でないヨウ素を服用する対策が決められている。

ベラルーシ共和国地図



ヨード入り食塩

募金の方法



チェルノブイリ医療支援ネットワークでは、常時募金を受け付けています。色々な募金方法があります。好きな方法でご支援いただければ幸いです。

1. ゆうちょ銀行から振込む

お近くのゆうちょ銀行の窓口やＡＴＭから郵便振替口座へ募金。思い立ったときにいつでも募金することができます。

口座番号：01770-1-65328

口座名：NPO法人チェルノブイリ医療支援ネットワーク

(※赤い振込用紙を使うと、手数料がかかりません。)

2. マンスリーサポーターになる

毎月26日にご希望の金額を、ゆうちょ銀行口座から自動引落しする方法です。「毎回振り込みに行く手間を省きたい」、「コツコツと継続的に支援をしたい」、という方にピッタリです。

現在約80名のサポーターがいます。100名を目標にしています。

詳しい資料の必要な方は、事務局までお気軽にご連絡ください。

3. コンビニから寄付をする

「昼間に郵便局まで足を運ぶことができない」、「よくコンビニを利用する」という方にピッタリです。

セブンイレブン、ローソン、ファミリーマート、ampm、ポプラなどほとんどのコンビニで利用できます。

金額は、3000円、5000円、1万円よりお選びください(有効期限は3ヶ月)。

コンビニ振込をご希望の方は、ご希望の金額をお知らせください。事務局より、コンビニ専用の振込用紙をお送りいたします。

募金の種類



募金の種類は、目的に合わせて3つのコースがあります。好きなコースをお選びください。

●「雪だるま3号」カンパ●
現在ベラルーシで活躍中の移動検診車「雪だるま2号」が廃車となったときに、次の「雪だるま3号」の購入資金にあてられます。



「のぞみ21」で作られた雑貨たち

●「のぞみ21」カンパ●

被災地の福祉工房「のぞみ21」の運営カンパです。現地を訪問した際、皆さまからお寄せいただいたメッセージとともに、経営者のナターシャさんへお届けしています。



ベラルーシでの甲状腺ガン検診

●活動支援金●
被災地への医療機材・試薬の提供、日本・ベラルーシ合同の専門医・検査技師による移動検診プロジェクトなど、活動全般の費用にあてられます。なお募金の一部は事務所経費にあてられます。予めご了承ください。特に使途を指定されない場合は、自動的にこちらの募金に振り分けられます。

チェルノブイリ原発事故から時を経た今でも、現地ではあなたの支援を必要としている人々がいます。被災した人々を支援するため、ぜひとも募金にご協力をお願いいたします。

チェルノブイリ被災者支援募金のお願い



●コーヒー・紅茶キャンペーンのご案内●

～安全でおいしいコーヒー・紅茶を飲むことで、チェルノブイリ被災者を支えることができます～

●対象期間●

2009年

8月31日

までのご注文分



<http://www.cher9.to/coffee.html>

キャンペーン期間中、コーヒー・紅茶を5個注文ごとに、コーヒー・紅茶(※)のいずれか好きな方をもう1個プレゼントいたします！(5個注文の場合は1個、10個注文の場合2個、…という感じです)

※) 「無農薬・中南米ブレンド ソルコーヒー」 粉 200g
「無農薬・南インド紅茶」 リーフ 100g のいずれかです。

ご注文時に、コーヒー・紅茶のいずれか好きな方をお選びください♪
(特に指定のない場合は、紅茶をプレゼントさせていただきます。)



お買い上げ総額5,000円以上で送料無料！

福祉工房「のぞみ21」雑貨などとの組み合わせも可能です。5000円未満の場合は、別途送料が必要です。送料は地域によって異なります。詳しくはお問い合わせください。

スタッフ
オススメ!

簡単で美味しい
水出しアイスコーヒー



アイスコーヒーの美味しい季節がやってきました。簡単に作れる水出しアイスコーヒーの作り方をご紹介します♪

☆材 料：浄水1リットル、極深煎りコーヒー粉40～50g

☆作り方：

- 1) お鍋などに分量のコーヒー粉と浄水を入れ、よくかき混ぜる。
- 2) 8～10時間程度、涼しい場所(冷蔵庫など)に置いておく。
- 3) コーヒー液をフィルターで漉して保存容器に入れ、出来上がり。冷蔵庫に保存して4～5日はおいしく召し上がれます。

☆事務局よりコメント：

水出しコーヒーポットを使うと、より手軽に作れます。事務局スタッフも、この作り方で毎日美味しいアイスコーヒーを楽しんでいます。分量はお好みで調整してみてください。



おいしいコーヒーを飲んで、暑い夏を乗り切りましょう！

主な活動報告



日々の活動の様子は、HPの「事務局スタッフブログ」でも紹介しています。
http://www.cher9.to/

◆4月3日(金) 福津市教育委員会へ書籍を寄贈



作文集を寄贈しました

3月の古賀市に続き、福津市教育委員会へ、チェルノブイリの子どもたちが書いた作文集「わたしたちの涙で雪だるまが溶けた」の日本語版と英語版を寄贈しました。
一人でも多くの方に読んでいただいて、チェルノブイリやベラルーシに関心を持っていただけると嬉しいです。

◆4月26日(日)ベラルーシ料理を作って食べる会



ボルシチを作ります♪

古賀市中央公民館にて、ベラルーシ料理教室を開催。
およそ30名の方に参加いただき、ボルシチやドラニキなどを作っておいしくいただきました。
9月、12月にも開催予定です。詳細はイベントスケジュールをご覧ください。事務局までお問い合わせください。



こちらも大人気の雑貨たち

◆5月24日(日)エレナ医師の来日講演会



講演をするエレナ医師

ベラルーシ共和国フレスト州よりエレナ医師が来日。
広島での研修の合間をぬって、講演会を開催し、現地の検診活動の報告やフレストの歴史などにお話されました。
詳しい報告は、5ページの特集記事をご覧ください。

◆6月27日(土)マトリョーシカ絵付け会



オリジナル作品が次々と誕生

昨年に続き、第3回目となる絵付けワークショップを開催。
「福祉工房のぞみ21」で作られたマトリョーシカをお手本に、思い思いのオリジナル・マトリョーシカが出来上がりました。
11月にも開催予定です。どうぞ楽しみに♪

◆5月17日(日)グローバルフェスタ in くるめ

久留米市「ネーるびあ久留米」で開催された「第2回グローバルフェスタ in くるめ」にブースを出展し、活動パネル展示やコーヒー、雑貨の販売をしました。
家族連れで来場される方も多く、「マトリョーシカかわいい!」と大好評でした。

私も応援しています!
会員さん紹介コーナー
Vol.5

このコーナーでは、チェルノブイリをともに支えたいという会員の皆さまより、活動への思いや現地へのメッセージをお聞かせいただきます。

取材/河上

本日の会員さん

山中 陽子さん

<福岡市西区>



特定非営利活動法人たんぽぽとりで
http://pub.ne.jp/tampopotoride/

未来の子どもたちのために。
チェルノブイリが問いかけるもの。

ですが、ホットスポットと言われる部分的に放射能の濃度が高い地域もあり、砂場や側溝、家の掃除機のゴミ、雨樋、庭の土、食べ物など様々なところで放射能が検出されていました。

チェルノブイリ原発事故は、当時子育て真っ最中だった私たちにとって、今でも忘れられない出来事です。「原子の火」「アトム」と、原子力の平和利用は「明るい未来」と思っていたのに、それが「瞬にして人々の安寧を奪った」ということも衝撃でした。8千キロ離れた日本にも放射能がやってくる、あらためて地球は狭い、地球は一つ、と知りました。

加えて、私は長崎生まれ。1945年8月、大村にいた母は、長崎の空に大きな原爆の雲がわき上がるのを目撃しています。被爆の話は身近でもよく耳にしています。だから、事故の後、原発周辺の人々の今後に強い関心を持ったのは、私にとって自然なことでした。

チェルノブイリ事故から1年後のこと。当時幼稚園と小学校だった子どもを連れて、たまたまドイツで1年間暮らすことになりました。被曝した穀物が収穫され、市場に出回った年です。

ある日、現地の「原子力に反対する母たち」という会の方について尋ねてみました。「子どもたちに何を食べさせたいのでしょうか?」と。彼女は「10ベクレル以下なら食べさせている」と答えました。放射能が含まれていると分かっている、他に選

択肢がなく、食べさせなければならぬという。質問した後味の悪さを今でも忘れません。

チェルノブイリ医療支援ネットワークには、初期の頃から支援をさせていただいています。直接現地を訪問して必要な支援を適切に行い、特に医療の面に特化し限られた寄付を有効に使っていることなど、よく工夫して活動を継続されていて、安心して支援することができます。お医者さんや検査技師さんが多忙な勤務の合間を縫って、支援を続けていらっしゃることに感謝を受けます。現地の被災者の立場第一で動かれているのは、現地との長期にわたる交流があればこそ。関係者の皆さんの穏やかな熱意と広がり、が本場にすばらしく、その隅々に支援者として参加できることをありがたく感じています。

2年前からお茶を習い始めたのですが、茶道を通し改めて気づいたことがあります。茶道は「何かをする」というプラスの仕

参加者募集中。

今後のイベントスケジュール

夏から秋にかけても、催し物が目白押し。
ご参加お待ちしております♪

チャリティ
ショップ

シンポジウム

ベラルーシ
料理地球市民
どんたく

●のぞみ21ほか チャリティショップ

2009年8月22日(土)14:00~17:00

古賀事務所(古賀市駅東2-6-26バステル館203号)

●NGO-企業のパートナーシップ in 福岡

2009年8月25日(火)13:30~16:30(13:00開場)

アクロス福岡2Fセミナー室2 (福岡市中央区天神1-1-1)

●ベラルーシ料理を作ろう!【要予約・定員15名】

2009年9月26日(土)12:00~15:00

古賀市中央公民館・研修棟106(古賀市中央2-13-1)

●国際協力フェスタ 地球市民どんたく2009

2009年10月10日(土)~11日(日)

アクロス福岡2F交流ギャラリー (福岡市中央区天神1-1-1)

ブースでは「のぞみ21」雑貨や支援コーヒーなども販売します。また国際協力セミナーやワークショップなど盛り沢山の内容です。

全品なんと3割引!
コーヒー・紅茶もありますNGOと企業との連携に
ついて事例発表ボルシチなど、ベラルーシ
の家庭料理にチャレンジ!福岡のNGOが大集合!
入場無料です♪

昨年の地球市民どんたく